

# 1 主な年齢の平均余命

令和5年簡易生命表によると、男の平均寿命（0歳の平均余命のこと。以下同じ。）は81.09年、女の平均寿命は87.14年となり前年と比較して男は0.04年、女は0.05年上回っている。平均寿命の男女差は、6.05年で前年より0.01年拡大している。また、主な年齢の平均余命をみると、男女とも全年齢で前年を上回っている。（表1、表2）

平均寿命の前年との差を死因別に分解すると、男女とも悪性新生物<腫瘍>、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などの死亡率の変化が平均寿命を延ばす方向に働いている。一方、男女とも老衰などの死亡率の変化が平均寿命を縮める方向に働いている。（図1）

表1 主な年齢の平均余命

(単位:年)

年齢	男			女		
	令和5年	令和4年	前年との差	令和5年	令和4年	前年との差
0歳	81.09	81.05	0.04	87.14	87.09	0.05
5	76.30	76.25	0.05	82.35	82.28	0.07
10	71.33	71.28	0.05	77.37	77.30	0.07
15	66.36	66.31	0.06	72.40	72.33	0.08
20	61.45	61.39	0.06	67.48	67.39	0.08
25	56.59	56.53	0.05	62.57	62.48	0.09
30	51.72	51.66	0.07	57.65	57.56	0.09
35	46.87	46.80	0.07	52.74	52.65	0.08
40	42.06	41.97	0.08	47.85	47.77	0.08
45	37.28	37.20	0.09	43.01	42.93	0.08
50	32.60	32.51	0.09	38.23	38.16	0.07
55	28.05	27.97	0.09	33.54	33.46	0.08
60	23.68	23.59	0.09	28.91	28.84	0.08
65	19.52	19.44	0.09	24.38	24.30	0.07
70	15.65	15.56	0.09	19.96	19.89	0.07
75	12.13	12.04	0.09	15.74	15.67	0.07
80	8.98	8.89	0.09	11.81	11.74	0.07
85	6.29	6.20	0.10	8.33	8.28	0.06
90	4.22	4.14	0.08	5.53	5.47	0.06

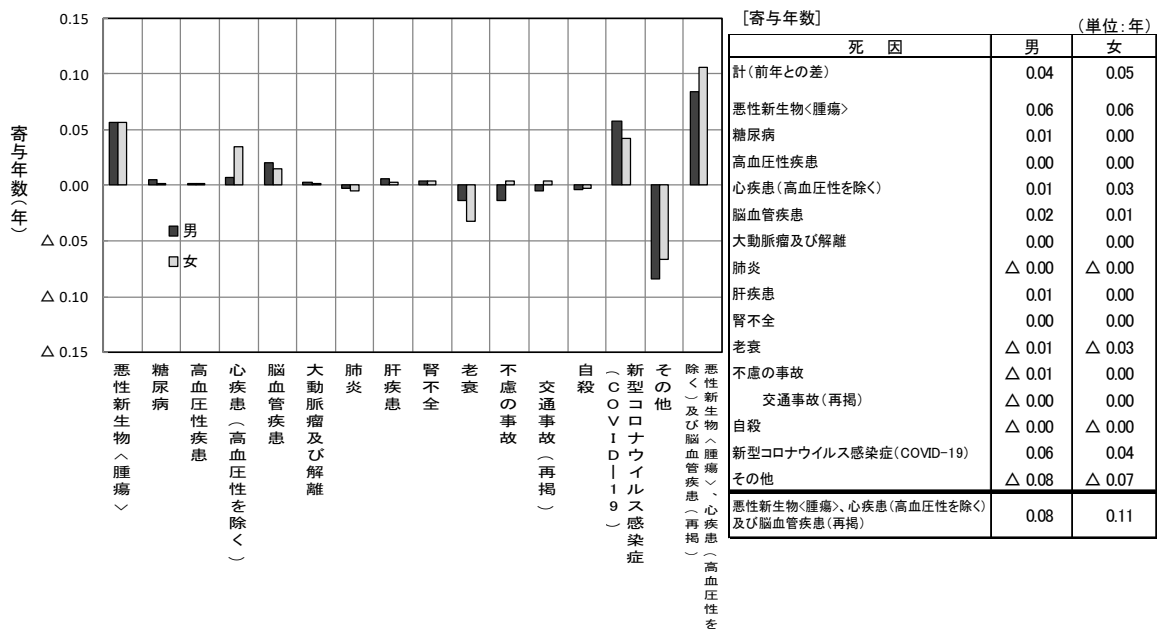
表2 平均寿命の年次推移

(単位:年)

和暦	男	女	男女差
昭和22年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
17	78.56	85.52	6.96
22	79.55	86.30	6.75
27	80.75	86.99	6.24
令和2	81.56	87.71	6.15
3	81.47	87.57	6.10
4	81.05	87.09	6.03
5	81.09	87.14	6.05

注：1) 令和2年以前は完全生命表による。  
2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

図1 平均寿命の前年との差に対する死因別寄与年数（令和5年）



注：交通事故は、不慮の事故の再掲である。

## 2 寿命中位数等生命表上の生存状況

令和5年簡易生命表によると、男女それぞれ10万人の出生に対して65歳の生存数は、男89,524人、女94,371人となっている。これは65歳まで生存する者の割合が男は89.5%、女は94.4%であることを示している。同様に、75歳まで生存する者の割合は男75.3%、女87.9%、90歳まで生存する者の割合は男26.0%、女50.1%となっている。(表3、図2、令和5年簡易生命表)

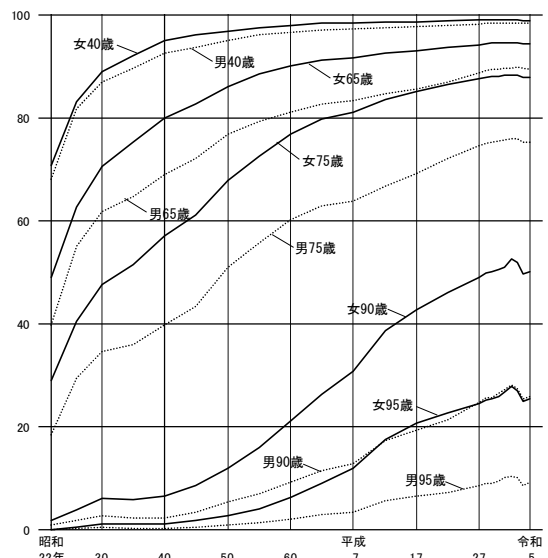
生命表上で、出生者のうちちょうど半数が生存すると期待される年数を寿命中位数という。令和5年においては、男83.99年、女90.02年となっており、男は2.90年、女は2.88年平均寿命を上回っている。(表4、図3)

表3 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合の年次推移  
(単位：%)

和暦	男					女				
	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳
昭和22年	68.0	39.8	18.5	0.9	0.1	70.9	49.1	29.0	2.0	0.2
25-27	81.8	55.1	29.4	2.0	0.3	83.2	62.8	40.5	4.0	0.6
30	87.0	61.8	34.6	2.7	0.5	89.0	70.6	47.6	6.2	1.3
35	89.7	64.8	36.1	2.3	0.4	92.2	75.2	51.5	6.0	1.2
40	92.6	69.1	39.9	2.3	0.3	95.0	80.0	57.1	6.5	1.2
45	93.7	72.1	43.5	3.5	0.6	96.1	82.6	61.2	8.6	1.9
50	95.1	76.8	51.0	5.4	1.1	96.9	86.1	67.8	12.0	2.9
55	96.1	79.4	55.7	7.1	1.5	97.6	88.5	72.7	16.0	4.2
60	96.7	81.1	60.2	9.4	2.2	98.0	90.1	76.9	21.2	6.4
平成2	97.1	82.6	63.0	11.6	3.0	98.3	91.3	79.8	26.3	9.0
7	97.2	83.3	63.8	12.8	3.4	98.4	91.6	81.2	30.9	11.9
12	97.5	84.7	66.7	17.3	5.7	98.6	92.6	83.7	38.8	17.7
17	97.7	85.7	69.3	19.3	6.5	98.7	93.1	85.1	42.7	20.8
22	97.9	87.0	72.2	21.5	7.3	98.8	93.6	86.5	46.2	22.8
27	98.2	88.8	74.6	24.9	8.6	99.0	94.2	87.7	49.1	24.5
令和2	98.4	89.7	76.0	28.1	10.5	99.0	94.6	88.4	52.6	27.9
3	98.4	89.8	76.0	27.5	10.1	99.0	94.6	88.3	52.0	27.1
4	98.4	89.6	75.3	25.5	8.7	98.9	94.4	87.9	49.8	25.0
5	98.3	89.5	75.3	26.0	9.2	98.9	94.4	87.9	50.1	25.5

注：1) 令和2年以前は完全生命表による。  
2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

図2 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合の年次推移



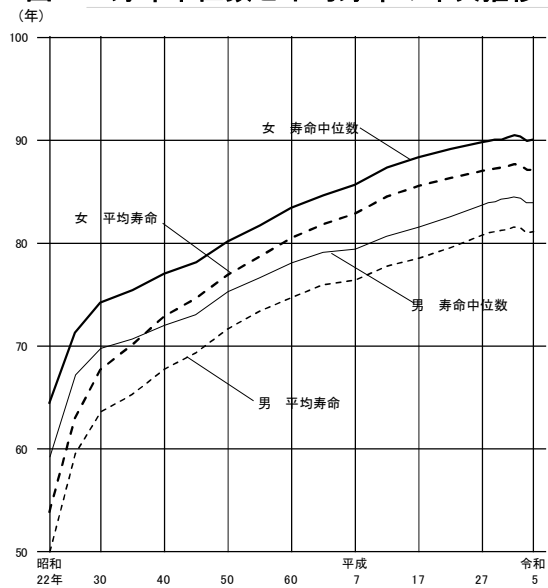
注：1) 平成27年以前及び令和2年は完全生命表による。  
2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

表4 寿命中位数と平均寿命の年次推移

和暦	男			女		
	寿命中位数	平均寿命	寿命中位数と平均寿命の差	寿命中位数	平均寿命	寿命中位数と平均寿命の差
昭和22年	59.28	50.06	9.22	64.45	53.96	10.49
25-27	67.22	59.57	7.65	71.31	62.97	8.34
30	69.79	63.60	6.19	74.19	67.75	6.44
35	70.66	65.32	5.34	75.44	70.19	5.25
40	72.00	67.74	4.26	77.04	72.92	4.12
45	73.10	69.31	3.79	78.19	74.66	3.53
50	75.31	71.73	3.58	80.17	76.89	3.28
55	76.69	73.35	3.34	81.75	78.76	2.99
60	78.06	74.78	3.28	83.38	80.48	2.90
平成2	79.13	75.92	3.21	84.71	81.90	2.81
7	79.49	76.38	3.11	85.73	82.85	2.88
12	80.74	77.72	3.02	87.41	84.60	2.81
17	81.56	78.56	3.00	88.34	85.52	2.82
22	82.60	79.55	3.05	89.17	86.30	2.87
27	83.76	80.75	3.01	89.79	86.99	2.80
令和2	84.51	81.56	2.95	90.55	87.71	2.84
3	84.39	81.47	2.92	90.42	87.57	2.85
4	83.93	81.05	2.88	89.96	87.09	2.88
5	83.99	81.09	2.90	90.02	87.14	2.88

注：1) 令和2年以前は完全生命表による。  
2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

図3 寿命中位数と平均寿命の年次推移



注：1) 平成27年以前及び令和2年は完全生命表による。  
2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

### 3 平均寿命の国際比較

平均寿命の諸外国との比較は、国により作成基礎期間や作成方法が異なるため、厳密な比較は困難である。しかし、現在入手している資料を用いて比較すると、表5のとおりである。

図4は、主な国の平均寿命の年次推移を図示したものである。

表5 平均寿命の国際比較

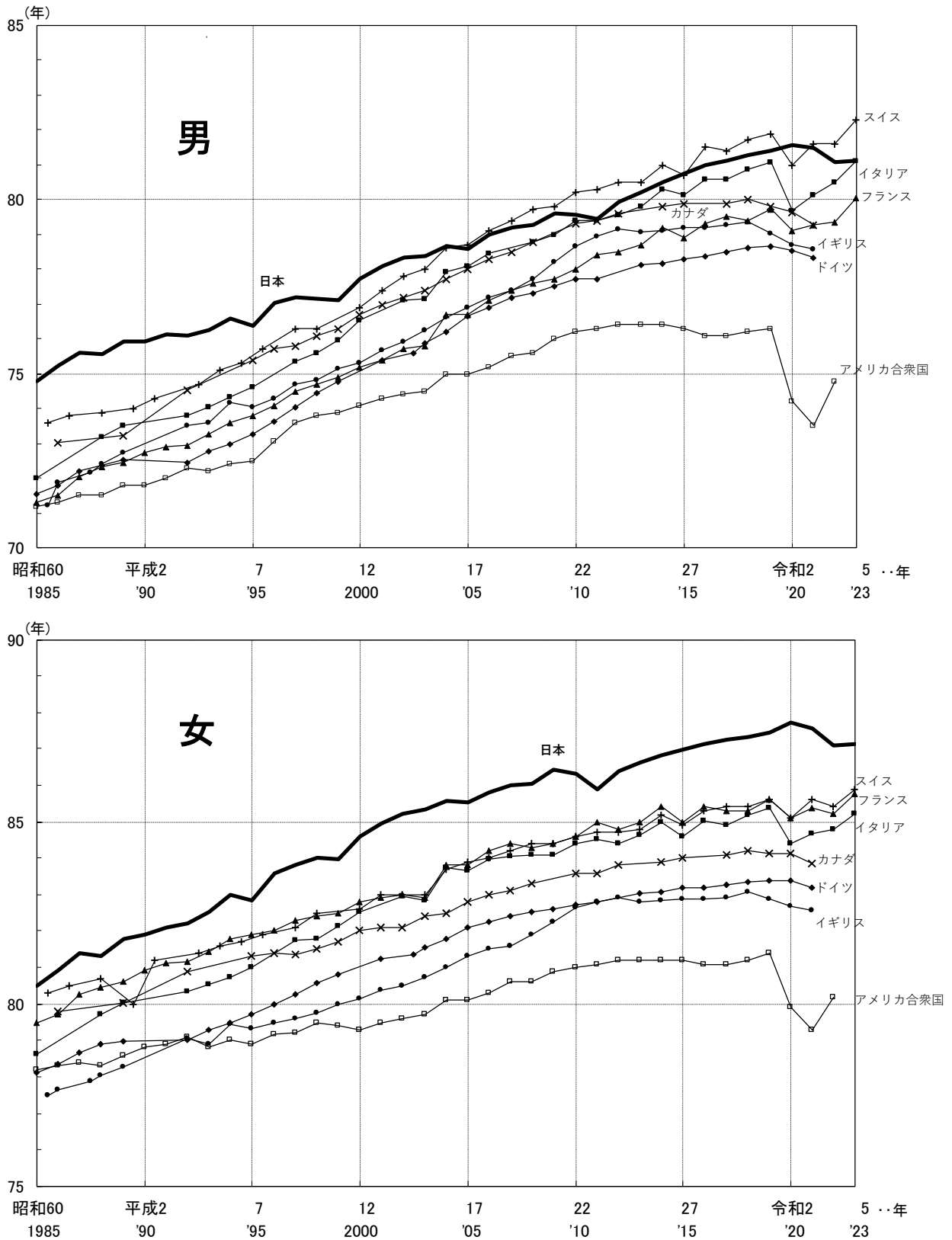
		(単位：年)			
国名	作成基礎期間	男	女	人口 (万人)	
	日本 (Japan)	2023	81.09	87.14	12 119
アフリカ (AFRICA)	アルジェリア (Algeria)	2019*	77.2	78.6	4 423
	コンゴ民主共和国 (Democratic Republic of the Congo)	2018*	56.5	59.7	10 525
	エジプト (Egypt)	2023	68.8	73.8	10 361
	南アフリカ (South Africa)	2022*	60.0	65.6	6 060
	チュニジア (Tunisia)	2022	74.7	79.3	1 178
北アメリカ (NORTH AMERICA)	カナダ (Canada)	2020 - 2022	79.28	83.84	3 893
	コスタリカ (Costa Rica)	2022*	78.31	83.46	521
	メキシコ (Mexico)	2023	72.3	78.6	13 012
	アメリカ合衆国 (United States of America)	2022	74.8	80.2	33 329
南アメリカ (SOUTH AMERICA)	アルゼンチン (Argentina)	2020*	74.90	81.44	4 624
	ブラジル (Brazil)	2022	71.96	78.95	21 483
	チリ (Chile)	2022 - 2023*	78.50	83.96	1 983
	コロンビア (Colombia)	2021 - 2022*	72.07	78.52	5 168
	ペルー (Peru)	2022*	74.4	79.7	3 340
アジア (ASIA)	バングラデシュ (Bangladesh)	2020*	71.2	74.5	17 173
	中国 (China)	2020	75.37	80.88	141 175
	キプロス (Cyprus)	2022	79.6	83.3	90
	インド (India)	2016 - 2020	68.6	71.4	136 717
	インドネシア (Indonesia)	2023	70.17	74.18	27 577
	イラン (Iran)	2016*	72.5	75.5	8 470
	イスラエル (Israel)	2017 - 2021	80.78	84.75	937
	マレーシア (Malaysia)	2023	72.5	77.4	3 265
	フィリピン (Philippines)	2015 - 2020*	69.93	75.91	11 157
	カタール (Qatar)	2021	79.97	83.40	279
	韓国 (Republic of Korea)	2022	79.9	85.6	5 163
	シンガポール (Singapore)	2022	80.7	85.2	564
	タイ (Thailand)	2022	73.6	80.7	6 681
	トルコ (Turkey)	2017 - 2019*	75.94	81.30	8 498
	ヨーロッパ (EUROPE)	オーストリア (Austria)	2022	79.05	83.78
ベルギー (Belgium)		2022	79.55	83.78	1 162
チェコ (Czech Republic)		2023	76.89	82.78	1 052
デンマーク (Denmark)		2022 - 2023	79.58	83.44	587
フィンランド (Finland)		2023	78.96	84.19	555
フランス (France)		2023	80.03	85.75	6 565
ドイツ (Germany)		2020 - 2022	78.33	83.18	8 324
ギリシャ (Greece)		2020*	78.34	83.61	1 046
アイスランド (Iceland)		2022	80.9	83.8	38
イタリア (Italy)		2023	81.090	85.225	5 903
オランダ (Netherlands)		2022	80.10	83.09	1 759
ノルウェー (Norway)		2023	81.39	84.63	543
ポーランド (Poland)		2022	73.42	81.06	3 765
ロシア (Russian Federation)		2022	67.57	77.77	14 686
スペイン (Spain)		2022	80.36	85.74	4 743
スウェーデン (Sweden)		2023	81.58	84.90	1 045
スイス (Switzerland)		2023	82.3	85.9	874
ウクライナ (Ukraine)		2021*	65.16	74.36	4 100
イギリス (United Kingdom)		2020 - 2022	78.57	82.57	6 703
オセアニア (OCEANIA)	オーストラリア (Australia)	2020 - 2022	81.22	85.26	2 598
	ニュージーランド (New Zealand)	2021 - 2023	80.25	83.73	512

参考：香港 (Hong Kong) の平均寿命は2023年で、男が 82.49 年、女が 87.91 年である。(人口 735万人)

注：平均寿命は、当該政府の資料(2024年5月までに入手したもの)による。ただし、\*印は国連「Demographic Yearbook 2022」による。

人口は、国連「Demographic Yearbook 2022」における2022年の値(コンゴ、チュニジア、インド、イスラエル、ロシア、スイス、イギリス、ニュージーランドは2021年、アルジェリアは2020年。)による。ただし、日本は人口推計による令和5(2023)年10月1日現在日本人人口である。

図4 主な国の平均寿命の年次推移 -1985~2023年-



資料：国連「Demographic Yearbook」等  
 注：1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。

# 4 死因分析

## (1) 死因別死亡確率

人はいずれ何らかの死因で死亡することになるが、生命表上で、ある年齢の者が将来どの死因で死亡するかを計算し、確率の形で表したものが死因別死亡確率である。

令和5年の死因別死亡確率を主要死因についてみると、0歳では男は悪性新生物<腫瘍>が最も高く、次いで心疾患（高血圧性を除く。以下同じ。）、老衰、脳血管疾患、肺炎の順、女は老衰が最も高く、次いで悪性新生物<腫瘍>、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。65歳では男女とも0歳に比べ悪性新生物<腫瘍>の死亡確率は低く、老衰の死亡確率は高くなっており、75歳及び90歳ではこの死亡確率の差がさらに広がっている。また、心疾患、脳血管疾患及び肺炎で、その死亡確率を0歳、65歳、75歳及び90歳の年齢間で比べると、ほぼ同程度となっている。

前年と比較すると、悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患の死亡確率は、0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で男女とも低下している。また、老衰の死亡確率は、男女ともすべての年齢で上昇している。

「悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患」の死亡確率は、男女とも0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で5割を下回っており、前年と比較するとすべての年齢で男女とも低下している。（図5、表6）

図5 死因別死亡確率（主要死因）（令和5年）

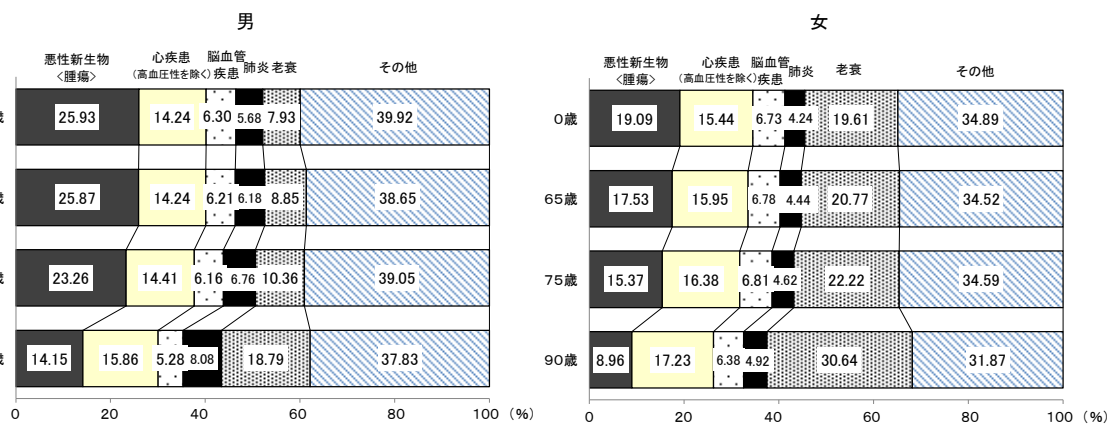


表6 死因別死亡確率（主要死因）の推移

主要死因	年齢	男					女				
		令和元年	2年	3年	4年	5年	令和元年	2年	3年	4年	5年
悪性新生物<腫瘍>	0歳	28.20	28.33	27.66	26.30	25.93	19.95	20.18	19.86	19.34	19.09
	65	27.97	28.22	27.55	26.16	25.87	18.26	18.58	18.28	17.72	17.53
	75	25.04	25.39	24.76	23.49	23.26	16.10	16.40	16.12	15.50	15.37
	90	15.58	16.02	15.43	14.43	14.15	9.69	9.87	9.68	9.02	8.96
	0歳	14.22	14.41	14.38	14.28	14.24	16.71	16.45	16.20	15.79	15.44
心疾患(高血圧性を除く)	65	14.29	14.47	14.43	14.31	14.24	17.27	17.02	16.75	16.32	15.95
	75	14.54	14.75	14.71	14.50	14.41	17.74	17.48	17.22	16.76	16.38
	90	16.19	16.45	16.63	15.94	15.86	18.60	18.41	18.19	17.61	17.23
	0歳	7.20	7.00	6.86	6.55	6.30	8.06	7.79	7.46	6.97	6.73
	65	7.19	6.99	6.84	6.48	6.21	8.17	7.87	7.55	7.05	6.78
脳血管疾患	75	7.27	7.03	6.87	6.46	6.16	8.29	7.97	7.64	7.11	6.81
	90	6.63	6.36	6.12	5.67	5.28	7.95	7.64	7.31	6.70	6.38
	0歳	8.43	7.07	6.25	5.64	5.68	6.68	5.33	4.56	4.14	4.24
	65	9.18	7.68	6.81	6.13	6.18	7.00	5.58	4.78	4.34	4.44
	75	10.14	8.44	7.48	6.73	6.76	7.31	5.82	4.98	4.52	4.62
90	12.64	10.31	9.12	8.09	8.08	8.10	6.33	5.32	4.86	4.92	
老衰	0歳	6.35	7.15	7.41	7.45	7.93	16.44	18.05	18.80	18.68	19.61
	65	7.08	7.97	8.25	8.31	8.85	17.40	19.08	19.88	19.79	20.77
	75	8.28	9.31	9.63	9.73	10.36	18.59	20.37	21.23	21.18	22.22
	90	15.61	17.09	17.61	17.91	18.79	26.11	28.23	29.34	29.51	30.64
	悪性新生物<腫瘍>、心疾患(高血圧性を除く)及び脳血管疾患(再掲)	0歳	49.62	49.75	48.90	47.12	46.47	44.72	44.42	43.52	42.10
65	49.45	49.68	48.82	46.95	46.32	43.70	43.48	42.59	41.08	40.27	
75	46.86	47.16	46.34	44.45	43.83	42.12	41.85	40.98	39.37	38.56	
90	38.41	38.83	38.19	36.04	35.29	36.24	35.92	35.18	33.33	32.57	

注：令和2年は完全生命表による。

(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び

ある死因で死亡することがなくなったとすると、その死因によって死亡していた者は、その死亡年齢以後に他の死因で死亡することになる。その結果、死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになる。この伸びは、その死因のために失われた平均余命としてみることができ、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができる。また、老衰を他の死因と同様にとらえ、老衰についてもどの程度平均余命に影響しているかを測ることにする。

令和5年の特定死因を除去した場合の平均余命の伸びを主要死因についてみると、0歳では、男女とも悪性新生物<腫瘍>が最も大きく、次いで男は、心疾患、脳血管疾患の順に、女は心疾患、老衰の順になっている。90歳においては男女とも老衰が最も大きく、次いで心疾患、悪性新生物<腫瘍>の順になっている。

前年と比較すると、悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患について、当該死因を除去した場合の平均余命の伸びは、0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で男女ともおおむね短くなっている。また、肺炎及び老衰について、当該死因を除去した場合の平均余命の伸びは、すべての年齢で男女ともおおむね長くなっている。

「悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患」を除去した場合の伸びは、0歳では男6.06年、女4.96年となっている。65歳では男4.93年、女3.93年、75歳では男3.67年、女3.15年、90歳では男1.47年、女1.51年となっている。(表7)

表7 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び(主要死因)の推移

(単位:年)

除去する主要死因	年齢	男					女				
		令和元年	2年	3年	4年	5年	令和元年	2年	3年	4年	5年
悪性新生物<腫瘍>	0歳	3.54	3.55	3.43	3.19	3.16	2.84	2.87	2.81	2.74	2.69
	65	2.89	2.93	2.83	2.62	2.61	1.96	2.02	1.97	1.89	1.87
	75	1.98	2.03	1.95	1.80	1.80	1.36	1.41	1.37	1.29	1.28
	90	0.59	0.62	0.57	0.50	0.50	0.41	0.44	0.42	0.37	0.37
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	1.41	1.44	1.42	1.41	1.42	1.28	1.26	1.23	1.19	1.17
	65	1.10	1.12	1.10	1.09	1.09	1.20	1.20	1.16	1.11	1.09
	75	0.91	0.93	0.92	0.89	0.89	1.13	1.13	1.09	1.04	1.02
	90	0.59	0.61	0.60	0.54	0.55	0.78	0.80	0.77	0.71	0.69
脳血管疾患	0歳	0.72	0.71	0.69	0.66	0.65	0.67	0.66	0.62	0.58	0.57
	65	0.55	0.55	0.53	0.50	0.49	0.58	0.57	0.54	0.50	0.49
	75	0.46	0.45	0.44	0.40	0.39	0.52	0.51	0.48	0.45	0.43
	90	0.23	0.22	0.21	0.18	0.17	0.31	0.31	0.29	0.25	0.24
肺炎	0歳	0.58	0.49	0.43	0.38	0.39	0.42	0.34	0.29	0.26	0.27
	65	0.58	0.49	0.43	0.38	0.39	0.42	0.34	0.29	0.26	0.27
	75	0.58	0.48	0.42	0.37	0.38	0.41	0.33	0.29	0.25	0.26
	90	0.44	0.36	0.31	0.26	0.26	0.31	0.25	0.20	0.18	0.18
老衰	0歳	0.30	0.36	0.36	0.36	0.39	0.88	1.01	1.08	1.04	1.11
	65	0.33	0.40	0.40	0.40	0.44	0.93	1.06	1.14	1.10	1.18
	75	0.38	0.45	0.46	0.45	0.50	0.99	1.13	1.21	1.17	1.25
	90	0.55	0.65	0.64	0.61	0.66	1.17	1.33	1.44	1.35	1.43
悪性新生物<腫瘍>、 心疾患(高血圧性を除く) 及び脳血管疾患	0歳	6.65	6.69	6.49	6.11	6.06	5.45	5.46	5.28	5.07	4.96
	65	5.43	5.50	5.32	4.97	4.93	4.34	4.39	4.24	4.01	3.93
	75	4.07	4.15	4.01	3.70	3.67	3.55	3.58	3.44	3.22	3.15
	90	1.72	1.79	1.70	1.48	1.47	1.79	1.84	1.75	1.55	1.51

注:1) 令和2年は完全生命表による。

2) 「悪性新生物<腫瘍>、心疾患(高血圧性を除く。以下同じ。)及び脳血管疾患」の数値は、以下の理由により「悪性新生物<腫瘍>」、「心疾患」及び「脳血管疾患」のそれぞれを合計した数値にはならない。

○「悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患」の数値:3つの死因を同時に除去していることから、3つのどの死因による死亡も発生しないものとして伸びが計算される。

○「悪性新生物<腫瘍>」「心疾患」「脳血管疾患」それぞれの数値:単独に死因を除去し、他の2つの死因を除去していないことから、当該2つの死因による死亡が発生するものとして伸びが計算される。